

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	住吉区
学 校 名	大阪市立荻田北小学校
学校長名	中西 泰代

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・荻田北小学校では、第6学年 56名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の正答率は62ポイントと、対全国平均－4.8ポイントであった。昨年度対全国平均の－6.7ポイントより2ポイントほど上回った。算数の正答率は49ポイントであり、全国平均からは9ポイント低い。理科の正答率は47ポイントと全国に比べ10ポイント低い。無回答率は国語1.6ポイントで全国より約2ポイント上回り、算数は3.2ポイントと理科は4.8ポイントとそれぞれ約0.5ポイント上回る結果となった。昨年度まで国語はを研究教科とし取り組んでいるため一定の結果はみられているが、算数、理科に大きく課題が残る結果と考える。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

昨年度に続き情報の扱い方に関する問題では64.7%と全国平均の63.1%を上回っていた。しかし、「読む、書く、話す・聞く」の設問では全国平均を6から8ポイント下回りここに課題が大きく見られた。記述式の設問に関しては全国平均と同ポイントで、大きな差はなく、無回答率と合わせて一定の成果が表れていると考える。

〔算数〕

どの領域についても全国平均を下回る結果となった。特に数と計算、図形領域についてそれぞれ10ポイント以上下回っている。領域の特性から基礎・基本の底上げが急務であると考え。ただ、昨年度の全国平均との差はマイナス11.7%であったので昨年度よりは2.3ポイント全国平均に近づいていると考える。

〔理科〕

どの領域についても全国平均を下回る結果となった。特に記述式については全国平均と18ポイント下回り、無回答率も上回っていることから課題であると考え。

昨年度研究教科である国語については、学校全体で取り組み、「学力向上支援チーム事業」を活用して記述式や問題解決の方法について取り組んできたため一定の成果は見られる結果となった。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思う」の項目では肯定的な回答をした児童の割合と全国平均との差は昨年度より1.5ポイントほど向上している。年々自己肯定感が高まっていると感じているが、肯定的な回答の合計は全国と比べてまだ1.5ポイント低いのでまだまだ意識させる必要がある。また「学校に行くのは楽しい」の項目では全国平均と比べて肯定的な回答の合計が－7ポイント低いことも課題である。「読書が好きですか」の項目では、肯定的な回答の合計は全国とほぼ同程度であるが、一番否定的な回答が全国と比べて10ポイント高いことから本を読む習慣にばらつきがあることがわかる。

しかし、「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」の項目では肯定的な意見の合計が100%で全国を大きく上回っていることから、学校の取り組みや担当の先生を信頼して登校しているととらえることができる。

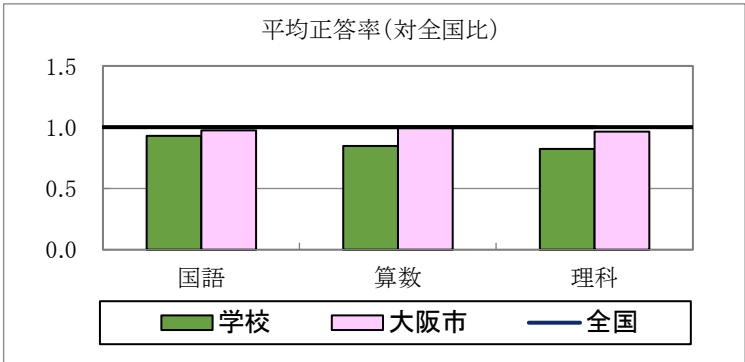
## 今後の取組(アクションプラン)

- ・視写や音読などの反復学習を校時表に位置づけ、今年度は計算の反復も取り入れ週3日全校で取り組んでいる。基礎基本を定着させるために漢字については、区の事業での漢字検定の取組を活用するなど、児童の意欲を高める指導を工夫する。
- ・質問紙調査より明らかになった本を読む習慣や読書好きを増やすため、今年度は委員会の取り組みを増やし、ペア読書による読み聞かせや、おすすめの本の紹介放送など本に親しむ時間を多く取り入れていく。
- ・各教科とも記述式の解答様式において無解答率が高いことが顕著であることから、自分の考えを表現する力を育成する。そのために、自分の考えの理由や根拠を明らかにして説明したり書いたりする場を多く設定する。

【 全体の概要 】

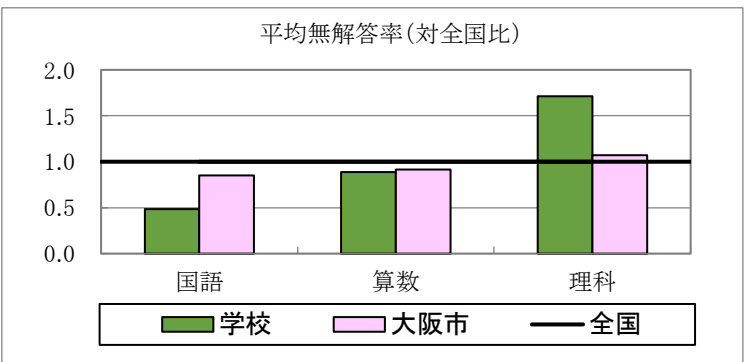
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	62	49	47
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.6	3.2	4.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

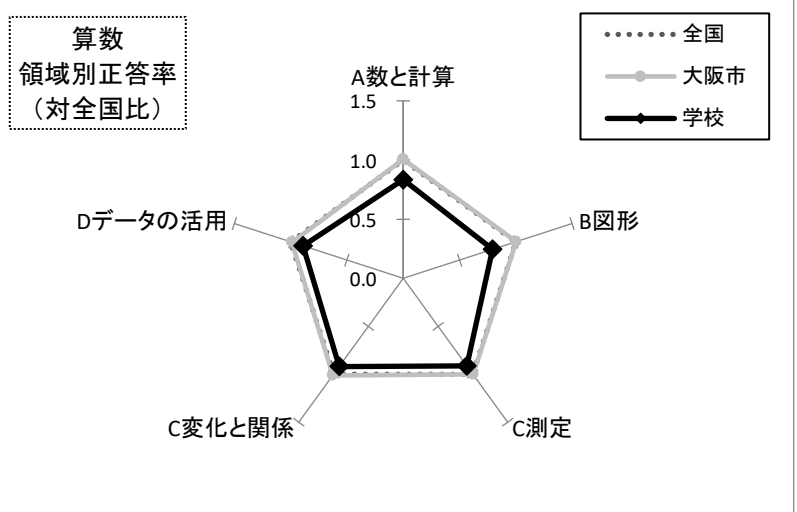
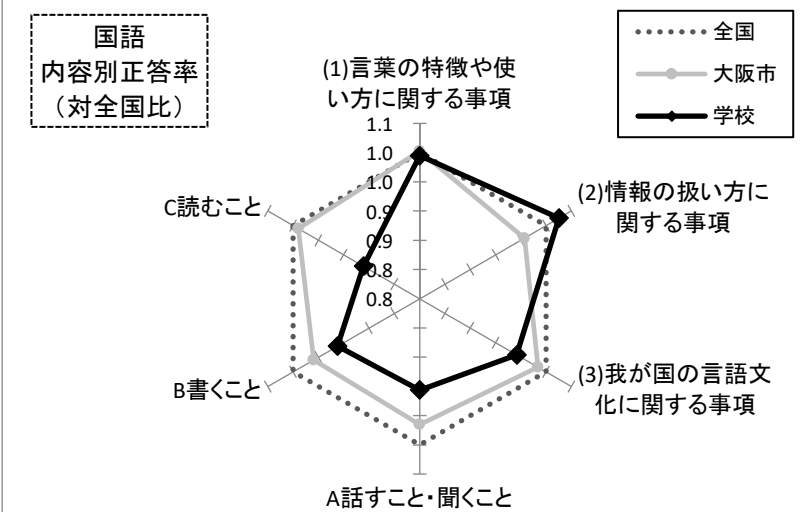
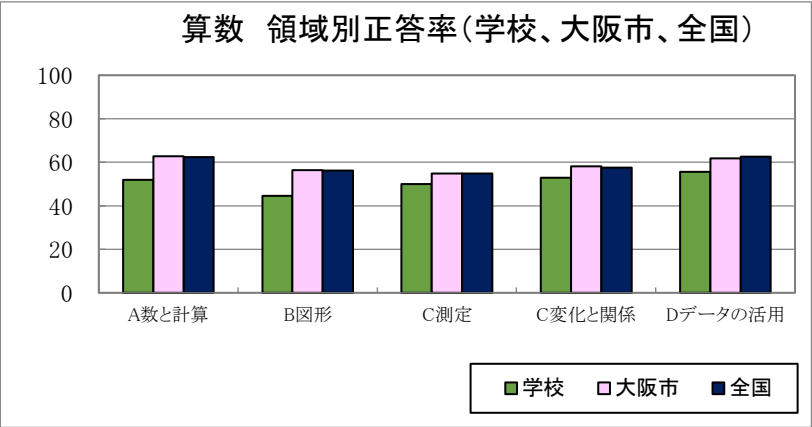
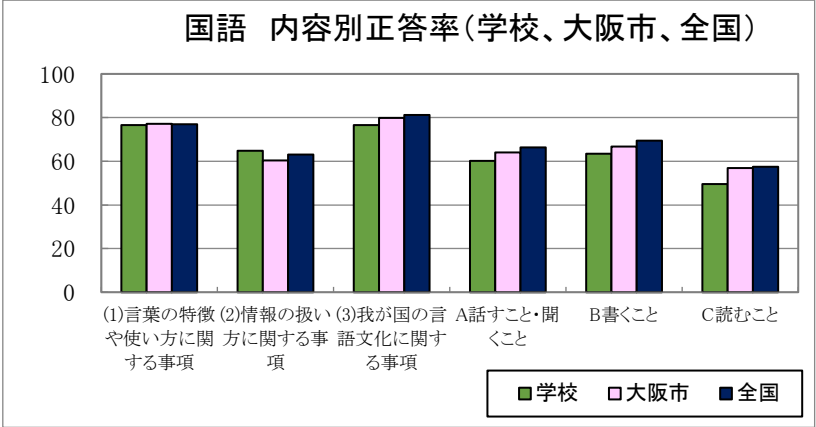


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	76.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	64.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	76.5	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	63.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	49.5	56.9	57.5

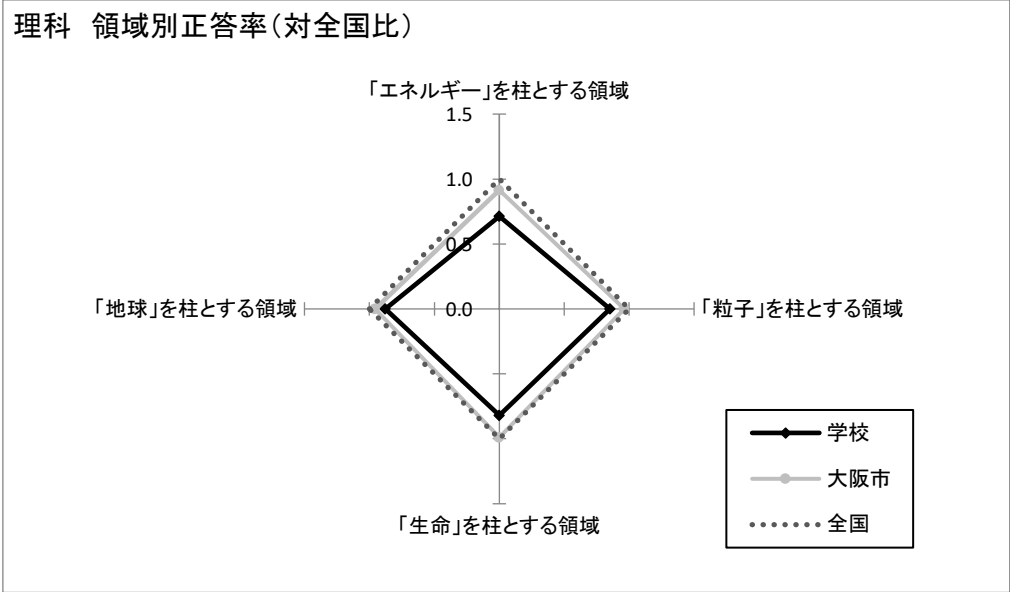
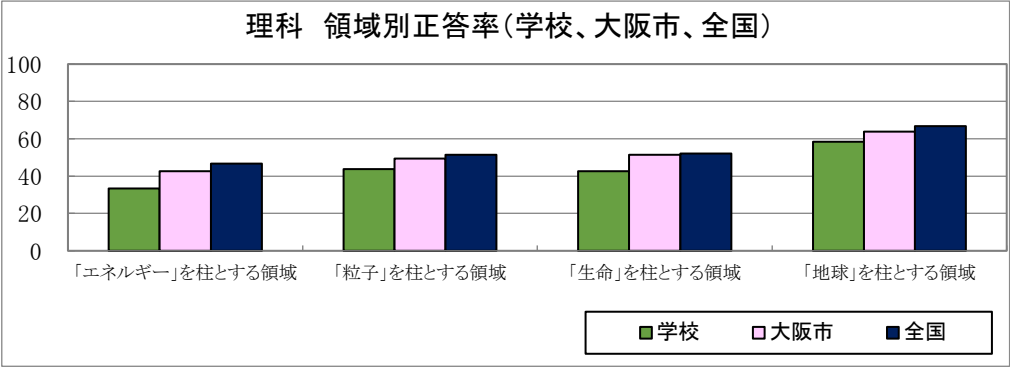
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	52.0	62.7	62.3
B 図形	4	44.6	56.4	56.2
C 測定	2	50.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	52.9	58.2	57.5
D データの活用	5	55.7	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	33.3	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	43.8	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	42.6	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	58.5	63.8	66.7



児童質問より

質問番号
質問事項

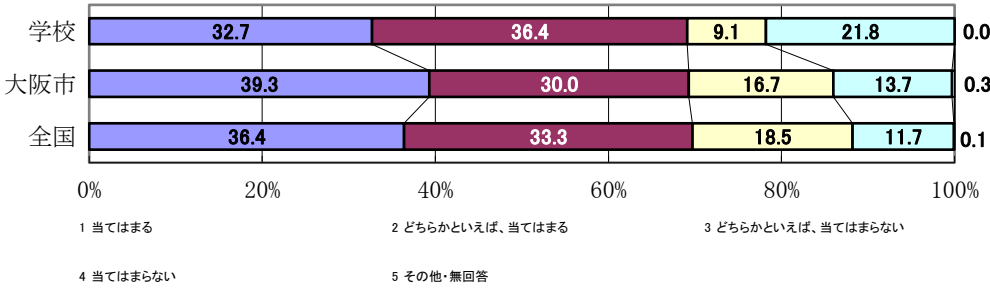
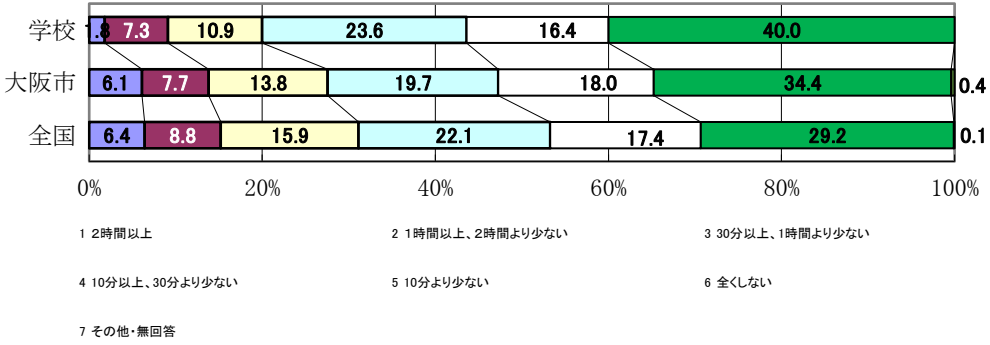
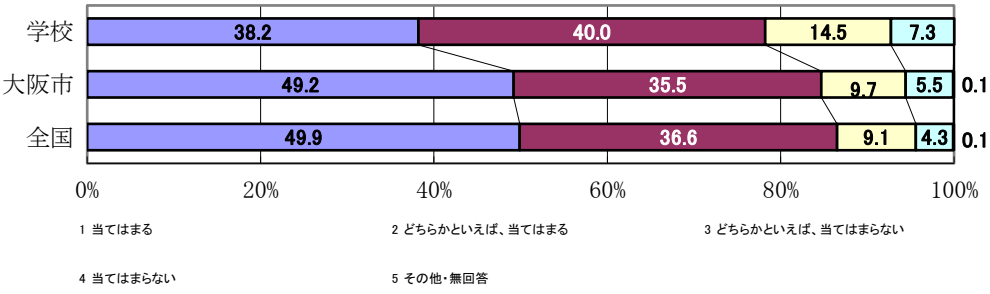
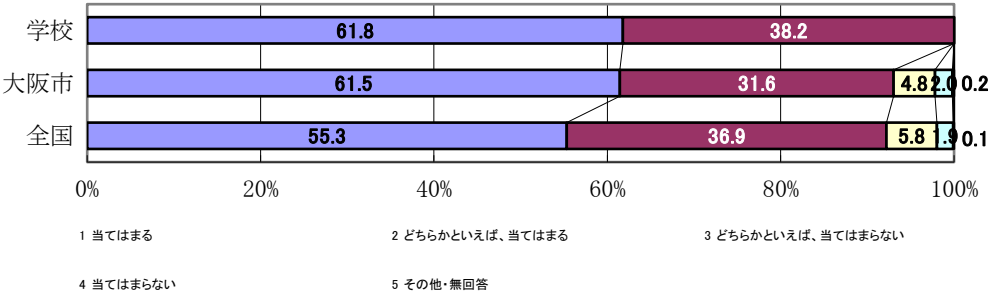
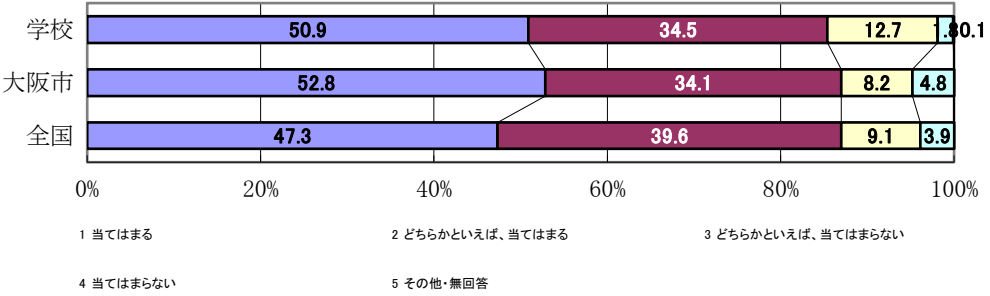
5
自分には、よいところがあると思いますか

6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

12
学校に行くのは楽しいと思いますか

21
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

24
読書は好きですか



学校質問より

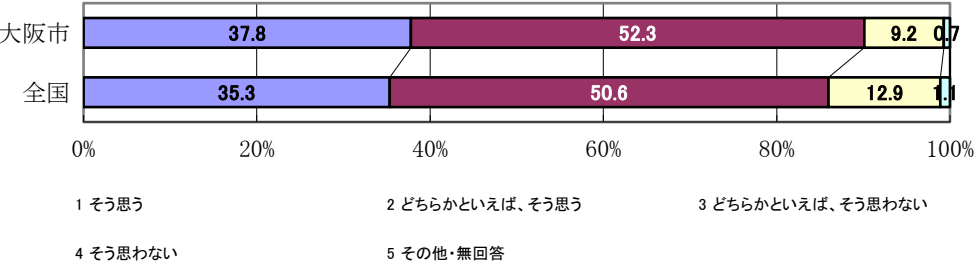


質問番号  
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

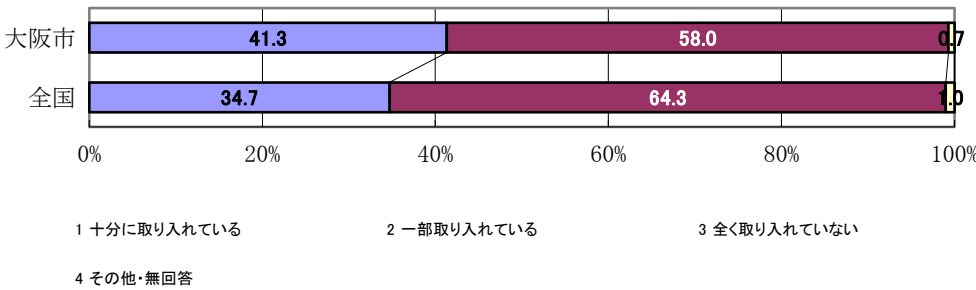
学校「**「そう思う」**を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

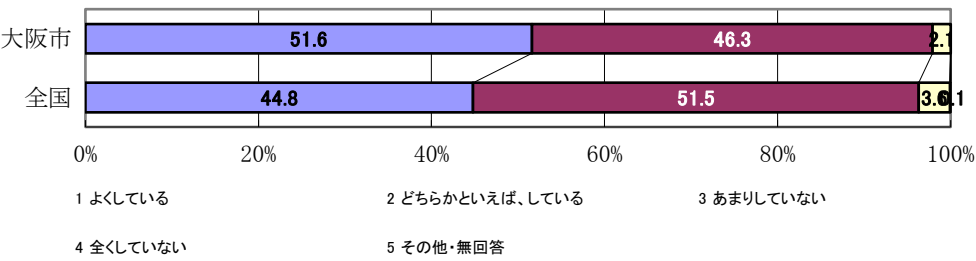
学校「**「十分に取り入れている」**を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

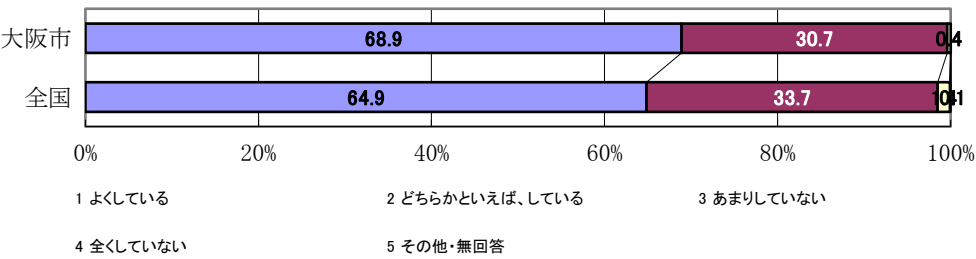
学校「**「よくしている」**を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校「**「よくしている」**を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校「**「どちらかといえば、そう思う」**を選択

